



ぜんぜん、
わからん!



お父さん、

子どもの気持ちわかっています?!

子どもの悩みを親子で解決していくために

子どもが学校生活に真剣に向き合えば向き合うほど、悩みは増えてくると思います。そんな時、親としても子どもの成長に見合ったアドバイスができるようにしたいものです。そこで今回のアンケートは親子間のコミュニケーション、特に父親と子どもの会話について調べてみました。

「日頃家庭で家族とのくらしい会話をしていますか?」という質問に対しての結果は、「よくする」「まあまあ」という回答が全体の90%以上を占めており、本校生徒の親子のコミュニケーションはよくとれている方ではないかと思われる。中一男子生徒の数字が85%とやや低いようですが、これも想定内の回答だと考えます。子どもが中学生ともなると親子間の会話がぎこちなくなる期間が自然にできるものです。これを人は反抗期と呼ぶのですが、ここを通り抜けるとまた、自然な会話ができるようになるのではないのでしょうか。そして子どもも成長していくに連れ大人のように、相手の様子をうかがうようになってくるため、親が機嫌が良いときを見計らって、会話を切り出そうとします。そんな時、迎える親の立場としては、子どもの前では常に上機嫌でいたいものです。続いて、「会話の相手は誰がいちばん多いですか?」の質問には、やはり生徒の性別、学年を超えて母親が一番、続いて兄弟、姉妹、父親が続きます。これは誰が一番かという質問ということもあり、全くコミュニケーションをとっていないとは考えていませんが、それでも父親は母親に比べると1/7程度という回答結果が出たのは、少し寂しい結果だと思われる。これにはさまざまな原因があると思われる。男性はどうしても、相手がイエスノーで答えるしかできないような質問をしたがる傾向があり、このような質問で始

まった会話は、最終的に説教か反論で終わってしまうことが多いようです。詰問するような姿勢ではなく、寛容な姿勢で子どもの成長を見守っていききたいものです。また、話しを聞く技術としては、

- ・話しをさえぎらない
- ・感情を否定しない
- ・合意の手を入れていく
- ・共感を示す
- ・話しに関連した質問や確認を入れる

などがありますが、これらに共通して言えるのが子どもが気楽に話しやすい環境を与えてあげるといえるのが大切です。子どもの話しをよくよく聞いた上で、親からの経験や踏まえた話しをしていくと、子どもも耳を傾けてくれるそうです。まさしく、「聞き上手」という言葉がピッタリではないでしょうか。

まずは寛容な心で「聞き上手」になることがポイントです。私も含めお父さん方にとっては、非常に忍耐の必要なことですが、自分の先走る気持ちはグッと抑えて、まずは子どもの言い分をしつかりと聞いてあげましょう。そうすればもともとと会話も拡がって、「子どもが今こんなことを考えていたのか」と新たな発見や気づきをもたらせてくれるかもしれません。

今どきの親子レポート

親子のコミュニケーション、
どうしていますか?

今回のアンケート調査の結果、たくさんの保護者の方から自由欄にコミュニケーションについての回答をいただきました。皆さん大変お忙しいなか、それぞれのご家庭でいろんな工夫をしながら、親子のコミュニケーションをとられているなあと思えました。

そんな中、約4分の1の保護者の方がコミュニケーション不足に悩んでいることもわかりました。さまざまな家庭環境のなかで、皆さんは子どもとのコミュニケーションをどのように工夫しているのでしょうか。頂いた回答の中から、一部をご紹介します、皆さんの家庭において参考に、いただけたらと思います。

教えて! コミュニケーション、わが家の工夫

- ・忙しいときでも、子どもが話しかけてきたら手を止めて顔を見て、最後まで話を聞くように心がけています。
- ・休日ではできるだけ家族一緒の時間を持つようにしています。
- ・食事中はテレビを消して、その日の出来事を聞いています。
- ・話しているときは、できるだけ聞き役になるよう、あまり怒らないようにしています。
- ・何でも話しやすいよう、「今日学校どうやった?」など、漠然と聞いています。
- ・子どもといるとき、時間があつたら会話がゲームなどを一緒にするようにして

います。飼っている犬のことをきっかけに話をよくします。寝る前にお茶などを飲みながら、いろいろ話しをしています。宿題をリビングでさせています。わからないことや間違いをすぐ教えることができます。テレビを見ながら、それをネタに会話しています。お父さんの困ったことなどを話します。なぜか話が弾みます。子どもと一緒に習い事(ピアノ)をしているので、その中でたくさん話しをしています。

自由欄より

今回頂いたアンケートから、さまざま意見や家族のあり方を垣間見ることができました。その中で、共感できる部分もあれば、こんな考え方もあるのかと思われる部分もあつたことでしょう。保護者の皆さんは、忙しい時間をやりくりして家事や仕事、育児に追われるなか、お子さんとのコミュニケーションを少しでもとるために色々工夫されています。子どもたちからは、「お父さん、お母さんいつもありがとう」という感謝の言葉も数多くあり、また「ほめてほしい」「叱らないでほしい」など率直に思っていることも多く、これからの親子関係のヒントになることもあつたのではないのでしょうか。